



2023年度
3・11生活復興支援プロジェクト
最終報告会 発表資料

発表者
プロジェクトリーダー **橋本泰**
会計リーダー **半谷義弘**



目次(発表の流れ)

- ① 3.11生活復興支援プロジェクト
について
- ② 今年度の活動内容
- ③ 活動から得られた学び
- ④ 来年度の活動について



①本プロジェクトについて

○プロジェクトの沿革

- ・東日本大震災発生時、湘南ビーチハウスプロジェクトの先生や学生が「何か復興のため学生ができることはないか？」と考えた
- ・その結果、津波で多くの建物が流された被災地に対し、ハード・ソフトの両面から復興支援を行うべく、本プロジェクトが立ち上げられた
- ・その後、先生方や様々な学外の方々、そして現地の皆様のご協力の上、岩手県大船渡市（泊地区）、宮城県石巻市（相川・小指地区）にどんぐりハウスや公民館を建設した
- ・2つの地域で様々なイベントを通じ、震災復興や防災啓発、地域振興に取り組んだ
- ・それ以外にも主に神奈川県において、募金活動や、東北の名産品の販売、発表会などを通じ、2地域や東北の魅力を発信する活動も行ってきた。



①本プロジェクトについて

○活動理念

持続可能な開発のための復興支援

○今年度達成目標

新しい復興支援活動をメンバーとともに創り上げ、
地域や社会に提案し、実行する。

○重視する学びのテーマ

チームやメンバーと協力して企画を創り上げ、
社会の中で共同することがどのようなことであるかを学ぶ。



現地の写真



← 結っ小屋
(大船渡市泊地区)

→ 小指観音堂
(石巻市小指地区)



← 泊地区公民館
(大船渡市泊地区・結っ小屋に隣接)



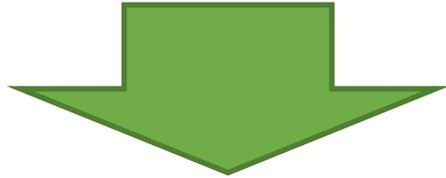
今年度の活動

- 5～6月 3.11LCPワークショップ
- 7月 現地調査（泊地区・相川小指地区）
- 8月 平塚市総合防災訓練

- 11月 建学祭
- 2月 東北から能登へ！復興まちづくりの
ためのシンポジウム

活動から得られた学び

交流会、総合防災訓練、シンポジウム etc.



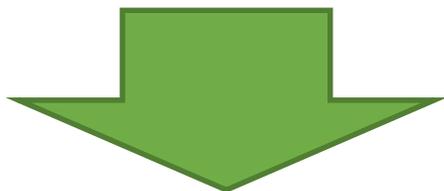
- ・自ら考える力 どうすれば多様な人が参加する企画を実施できるか？ 何を出展するのが妥当なのか？
- ・集い力 メンバー間でどう意思疎通を図っていくか？
- ・挑み力 様々な企画をどう実施していく
- ・成し遂げ力 人員が限られる中、どうすれば企画を最後までやり切れるか



次年度以降の活動について

コロナ前の本プロジェクトの活動
一年間に何度も現地に訪問し、様々な活動を実施してきた。

コロナ渦に入る



現地に全く行くことができず…
その結果メンバーの活動意欲喪失
徐々に活動に参加するメンバーの減少

その結果十分な世代間の引継ぎなどができず、再びコロナ前の活動ができる社会状況に戻っても、従来の活動をすることは、できず…





次年度以降の活動について

発足当初「活動期間は10年」

→コロナ禍で期間延長



チャレンジプロジェクトとしての
活動

→今年度をもって終了



今後の活動

3月

- ・ 仙台防災みらいフォーラム
- ・ ひらつな祭
- ・ 高輪共育プロジェクト合同 気仙沼地区訪問



まとめ

- ・本プロジェクトは震災復興のため、学生が何かできることはないかと考えた結果、設立された。
- ・東北の2つの地区で様々な活動を実施してきた。
- ・今年度は現地で2回活動を実施した。
- ・今年度で今の形態での活動は終了するので、最後の総まとめとなるシンポジウムを実施した。



3.11 Life Care Project 生活復興支援

以上で3・11生活復興支援プロジェクトの最終報告を終わります。
最後までお聞きいただき、ありがとうございました。
また、13年間本プロジェクトを支えていただいたすべての皆様、誠にありがとうございました。